

第3学年「国語」学習指導案

授業者 下脇 陽子

2月20日（木）3階D室 10:00～10:40 話し合い10:55～11:45

1 単元名 なぞを解き明かそう『モチモチの木』

2 単元について

単元 目標	○場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の人柄や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読む。 ○人柄や境遇、状況と変化する気持ちを関連的にとらえ、感じ取ったことを交流する。
----------	---

授業では、子どもたちが話し合い、聞き合うことによって読みを深めていきたい。そこで、初発の感想にみられる疑問やみんなで考えたい問いを“なぞ”として共有し、叙述を根拠に話し合うことを通して読み深めることを大切にしてきた。5月『ゆうすげ村の小さな旅館』（東京書籍）、9月『ちいちゃんのかげおくり』（光村図書）、11月『サーカスのライオン』（東京書籍）の学習を経て、『モチモチの木』（東京書籍）を最後の物語単元とする。

『モチモチの木』の中心人物である豆太は、臆病であるが優しさがあり、時には勇気が出る。しかし、話の冒頭と終末に臆病な様子が描かれているため、「豆太は変わったのか、変わっていないのか。」という問いや、「豆太はどんな人物か。」という問いが生まれるだろう。小見出しで分けられた5つの場面にみられる豆太の行動や心情を追いながら、豆太の変容や人物像をとらえていきたい。

本単元の言語活動として「人物紹介カードを書くこと」を設定する。カードには、好きな登場人物の人柄を表すことばと根拠となる叙述を書く。一人の登場人物につき一枚のカードとする。カードに書くことで、子どもたちは「○○はどんな人物か。」という問いをもって読み、叙述をもとに想像して読むことができる考える。

導入部分では、これまでに学習した物語から友達に紹介したい登場人物についてカードを作成し、紹介し合う。人物の人柄に視点をあてて読む意欲を高めるとともに、教師は子どもたちの読みの実態を把握する。第一次では、『モチモチの木』を読み、子どもたちの問いを話し合うことを中心として、豆太の行動と、臆病、勇気、優しさについて読み取る。第二次では、豆太のカードを作成する。これまでのノートを見返しながら「豆太は変わったのか、変わっていないのか。」「豆太はどんな人物か。」について考えたことをカードにまとめ、個人の読みを書いてまとめる。単元の終わりには、それぞれのカードを読み合うことで一人ひとりの感じ方の違いに気付かせたい。読書を通して様々な人物に出会い、自分自身や他者を見つめる視点が広がることを期待している。

3 学習指導計画（9時間目／全12時間）

導入 （1）これまでの作品の人物紹介カードを書き、好きな登場人物について紹介し合う。（3時間）

第一次 （2）『モチモチの木』を通読し、初発の感想を書く。（1時間）

（3）初発の感想を全体で共有し、学習計画を立て、扉のページを作成する。（1時間）

（4）問いに対する自分の考えを交流しながら、読みを深める。（5時間 本時5/5）

第二次 （5）豆太の人物像紹介カードをつくり、読み合う。（2時間）

4 本時の学習について

（1）本時のねらい

- ・場面ごとに読み取ったことを比べながら、豆太は変わったのか、変わっていないのかを叙述をもとに話し合う。

（2）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 今日の問いを確認する。 2 自分の考えを書いてから、全体で話し合う。 3 自分の考えを再度まとめる。	○板書等で前時までに読み取った豆太の様子を想起できるようにする。 ○「やさしさ」「勇気」「臆病」等、叙述をもとに、ことばを吟味しながら話し合うことを促す。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

- ・子どもたちは「やさしさ」「勇気」「臆病」などのことばを、叙述をもとに吟味して使っていたかどうか。